

NetBackup™ リリースノート

リリース 11.0.0.1

NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2025-10-24

法的通知と登録商標

Copyright © 2025 Cohesity, Inc All rights reserved.

Cohesity、Veritas、Cohesity ロゴ、Veritas ロゴ、Veritas Alta、Cohesity Alta、NetBackup は、Cohesity, Inc またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Cohesity 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このCohesity製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Cohesity, Inc からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のままで提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity, Inc およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Cohesityがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Cohesity, Inc
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Cohesity Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Cohesity** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Cohesity** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Cohesity SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 11.0.0.1 について	7
	NetBackup 11.0.0.1 のリリースについて	7
	NetBackup の最新情報について	8
	NetBackup サードパーティの法的通知について	8
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	9
	NetBackup の新しい拡張と変更について	9
	NetBackup 11.0.0.1 の新機能、変更点、拡張機能	9
	Cohesity 用語の変更点	10
	NetBackup 11.0.0.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する	11
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	12
	NetBackup Web UI の新機能および拡張機能	12
	NetBackup for Oracle の新しい拡張機能	13
	NetBackup 11.0.0.1 のサポートの追加および変更点	13
	NetBackup による MongoDB Ops Manager の作業負荷のサポート	16
	FortKnox Google の構成	16
	NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能	17
	マルウェアスキャンでの Hyper-V ポリシー形式のサポート	17
	Veritas Alta View Recovery Vault から FortKnox for NetBackup への変更	17
第 3 章	操作上の注意事項	18
	NetBackup 11.0.0.1 の操作上の注意事項について	18
	NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	19
	Windows で NetBackup 11.0.0.1 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す	19
	ネイティブインストールの要件	19
	NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある	20
	HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて	20

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	21
Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する	21
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	22
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	22
Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	22
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	23
PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される	23
NetBackup 11.0.0.1 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が失敗する	23
Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある	24
NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項	24
NetBackup バージョン 11.0.0.1 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要	25
Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する	25
レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない	25
バックアップジョブが応答しなくなり、一時的なステージング場所で大量の領域を消費する。	25
NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)	26
Alma Linux 9.5 および 8.10 のマーケットプレイスイメージから作成した VM では、スナップショットコピーからの単一ファイルリストアに失敗する	26
NetBackup for VMware の操作上の注意事項	26
NetBackup NAS の操作上の注意事項	27
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある	27
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項	27
haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする	27
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない	27
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される	28
SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない	28
スタックの更新後に、[NBOS Backups] タブと[NBOS Backup Admin] タブが Horizon UI から消える	28

	NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項	28
	CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資 産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされる。	28
	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	29
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環 境のサポート	29
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字 を含めないようにする	30
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	31
	Cohesity Services and Operations Readiness Tools について	31
付録 B	NetBackup のインストール要件	33
	NetBackup のインストール要件について	33
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	34
	NetBackup 11.0.0.1 のバイナリサイズ	35
付録 C	NetBackup の互換性の要件	38
	NetBackup のバージョン間の互換性について	38
	NetBackup の互換性リストと情報について	39
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	39
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	41
	NetBackup の関連マニュアルについて	41

NetBackup 11.0.0.1 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 11.0.0.1 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 11.0.0.1 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.9 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 11.0.0.1 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 11.0.0.1 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Cohesity Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.31 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、NetBackup Appliance 3.1 は NetBackup 8.1 を基盤としています。この開発モデルにより、NetBackup 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる NetBackup リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。NetBackup アプライアンスを利用する場合、実行する NetBackup アプライアンスバージョンの『NetBackup リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な NetBackup の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の NetBackup 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の掲示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。NetBackup に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『NetBackup サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 11.0.0.1 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup の互換性リスト](#) に文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、[Cohesity](#) によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に実行されます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#) を参照してください。

p.7 の「[NetBackup 11.0.0.1 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.39 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 11.0.0.1 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 11.0.0.1 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- 「Cohesity 用語の変更点」
- 「マルウェアスキャンでの Hyper-V ポリシー形式のサポート」
- 「FortKnox Google の構成」
- 「NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 11.0.0.1 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信(最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 11.0.0.1 のサポートの追加および変更点」
- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」
- 「NetBackup Web UI の新機能および拡張機能」
- 「NetBackup for Oracle の新しい拡張機能」

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 11.0.0.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する」

作業負荷とデータベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「NetBackup による MongoDB Ops Manager の作業負荷のサポート」

その他の通知事項

- 「Veritas Alta View Recovery Vault から FortKnox for NetBackup への変更」

Cohesity 用語の変更点

Cohesity では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

メモ: Cohesity では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

NetBackup 11.0.0.1 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 11.0.0.1 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup プライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 11.0.0.1 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Cohesity は次のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.13.0 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合にのみ必要です。

バージョン 2.13.1 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 11.0.0.1 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- HPE Alletra Storage MP X10000 (S3)
- Nutanix Objects S3 オブジェクトロック (S3)
- COSP (クラウドオブジェクトストア保護) Nutanix Objects
- Amazon (S3) - メキシコ (中部) 地域
- OCI (Oracle Cloud) アーカイブ階層 (S3)
- DigiBoxx Megh3 (S3)
- NEC Cloud Storage (St) (S3)
- Google (S3) – サンティアゴ (southamerica-west1) リージョン

- Google (S3) – スtockホルム (europa-north2) リージョン
- Veritas Access から Cohesity Access (S3) への名前の変更
- iTernity iCAS FS 用のクラウドオブジェクトストア保護 (COSP)
- Amazon (S3) – アジア太平洋 (マレーシア)
- Amazon (S3) – アジア太平洋 (タイ)
- FortKnox Amazon (S3) - メキシコ (中央)

最新のクラウド構成パッケージについては、次の技術情報を参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次の技術情報を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用でなくなります。

- bp.kill_all
- bpdown
- bpclusterkill

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

NetBackup Web UI の新機能および拡張機能

このリリースでは、NetBackup Web UI には次の新機能と拡張機能が含まれています。

- このリリースには、問題をトラブルシューティングするための証拠を収集できるログ収集機能が含まれています。それらの証拠には、nbsu 診断情報やログファイルが含まれます。それらの証拠をダウンロードし、個別に Cohesity テクニカルサポートにアップロードできます。ログは、次の方法で収集できます。
 - [ヘルプ (Help)]メニュー、[ログの収集 (Log collection)]の順に選択します。
 - [アクティビティモニター (Activity Monitor)]の[ジョブ (Jobs)]タブでジョブを選択し、[ログの収集 (Collect logs)]を選択します。
 - ジョブの詳細で、[ログの収集 (Collect logs)]を選択します。

NetBackup for Oracle の新しい拡張機能

NetBackup 11.0.0.1 には、nboracmd コマンドの更新が含まれています。これらの変更により、次の機能が追加されています。

- データベース (RAC データベースまたは単一インスタンスデータベース)、インスタンス、RMAN カタログ、Data Guard を追加できます。
- データベースまたは Oracle プラガブルデータベース (PDB) を検出できます。
- データベース、Oracle プラガブルデータベース (PDB)、インスタンス、RMAN カタログ、Data Guard を削除できます。
- Data Guard の一覧表示

NetBackup 11.0.0.1 のサポートの追加および変更点

メモ: この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

NetBackup 11.0.0.1 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

プラットフォーム

- Windows Server 2025 - ディザスタリカバリ
- VMware のゲスト OS (Windows Server 2025)
- Redhat Linux 9.x (x64)
- Rocky Linux 9.6
- Oracle Linux 9.6 (x86-64) Unbreakable Linux Kernel
- Oracle Linux 9.6 (x86-64) Red Hat Compatible Kernel
- AIX 7.3 TL3 (クライアント、ファイルシステム) (POWER)
- InfoScale 8.0.2 - SLES15SP6
- Debian 12.10 クライアント

データベース

- SAP HANA 2.0 SPS 07 - Red Hat Enterprise Linux 9.4 POWER
- SAP HANA 2.0 SPS 08 - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP5 (x86_64)
- SAP HANA 2.0 SPS 08 - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP5 (Power 9)
- SAP HANA 2.0 SPS 08 - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP6 (Power 9)

- SAP ASE 16.1 - SLES 15.x (x86-64)
- SAP ASE 16.1 - RedHat Linux 9.x (x86-64)
- SAP ASE 16.1 - Windows Server 2022 (x86-64)
- MySQL 8.x - Debian 11
- MariaDB 11.x - Windows 2025
- SAP Oracle - Red Hat Enterprise Linux 9.x
- DB2 12.x - Windows Server 2022 (x64-86)
- DB2 12.x - AIX 7.3 (POWER)
- DB2 12 - SUSE Linux Enterprise Server 15 SP6 (x86-64)
- Informix 15.x - Ubuntu 22.04
- PostgreSQL 17.x - Windows Server 2022
- MongoDB 8.0.x - Rocky Linux 9.x
- PostgreSQL 17.x - Rocky Linux 9.x
- PostgreSQL 17.x - Rocky Linux 8.x
- Microsoft SQL Server 2022 - Windows Server 2025
- Microsoft SQL Server 2019 - Windows Server 2025
- MariaDB 10.x - Debian 12.x

その他のサポートと変更点

- BMR - クライアント/ブートサーバー - Windows Server 2025 のプレビュー
- BMR - クライアント/ブートサーバー - IBM AIX 7.3 TL2
- HPE の新しいテープライブラリ - MSL2024 G4 - Windows Server 2025
- HPE 1x8 G3 オートローダーテープライブラリ - Windows Server 2025
- BMR - クライアント/ブートサーバー - Oracle Enterprise Linux 8.10 (x86-64)
- HPE の新しいテープライブラリ - 1x8 G3 AUTOLDR - RHEL 9.x

S3ObjectStorage

- Google Cloud (GCP) のストックホルムリージョン (europa-north2)
- AWS の新しいタイリージョン (ap-southeast-7)
- AWS の新しいマレーシアリージョン (ap-southeast-5)
- オブジェクトロック付き NEC Cloud Storage (St)
- SpanFS - SPANFS 認定から NFS へのホスト型 MSDP

- iTernity iCAS FS 用のクラウドオブジェクトストレージ保護
- Google Cloud (GCP) のサンティアゴリージョン (southamerica-west1)
- NEC Cloud Storage (St)
- NEC Cloud Storage (St) オブジェクトロック - SLES
- NEC Cloud Storage (St) オブジェクトロック - RHEL
- SpanFS S3 - オブジェクトロック認定
- SpanFS - S3 ターゲットの認定

NDMP

- Dell EMC PowerScale OneFS 9.10 NDMP - NB 10.x、11.0 - Windows
- Dell EMC PowerStore 4.0 NDMP - NB 10.x - Windows 2022
- NetApp ONTAP 9.16 NDMP - NB 10.x、11.0 - Window
- Dell EMC PowerStore 4.0 NDMP - NB 10.x、11.x - RHEL 9.x
- Dell EMC PowerStore 4.0 NDMP - NB 11.x - Windows 2025

NetBackup Snapshot Manager

- AlmaLinux 9.5 ゲスト VM (NBSM)
- NetBackup Snapshot Manager - AlmaLinux 8.10
- AlmaLinux 8.10 ゲスト VM (NBSM)
- NetBackup Snapshot Manager - AlmaLinux 9.5

OpenStorage

- SuSE 15 SP6 付き Quantum DXi OST プラグイン 11.0
- NB 仮想アプライアンス上の Dell Data Domain OST プラグイン 8.3
- Windows 2016、Windows 2019、Windows 2022 上の Dell Data Domain OST プラグイン 8.3
- SLES 12 上の Dell Data Domain OST プラグイン 8.3
- NEC HYDRASor OST プラグイン 2.12 - Windows 2025
- RHEL 9 付き Quantum DXi OST プラグイン 11.0
- Rocky Linux 9 付き Quantum DXi OST プラグイン 11.0
- Windows Server 2025 付き Quantum DXi OST プラグイン 11.0
- Oracle Linux 9 付き Quantum DXi OST プラグイン 11.0
- Dell EMC Data Domain Virtual Edition 8.1 および OST プラグイン 8.1

仮想化

- Azure Stack Hub 2501
- VMware - バックアップホストとしての RedHat 8.10 (VDDK 8.0.3)
- Nutanix AOS 7.0.0.5 - Windows Server (バックアップホスト)
- Nutanix AOS 7.0.0.5 - RedHat Enterprise Linux (バックアップホスト)
- K8S - Vanilla 1.32
- Hyper-V Server 2025 およびゲストオペレーティングシステム Windows Server 2025

クラウドオブジェクトストア

- SUSE オペレーティングシステムで実行されているバックアップホスト向けに追加されたサポート
- SLES メディアサーバーのクラウドオブジェクトストア保護 (COSP) のサポート
- 最新の Nutanix Objects v5.1.1 に対する Nutanix タグのサポート修正テスト

NetBackup による MongoDB Ops Manager の作業負荷のサポート

MongoDB Ops Manager は、MongoDB データベースを活用するうえで不可欠なツールです。リアルタイム監視と堅牢なバックアップソリューションにより、データベース管理を簡略化します。Ops Manager Automation を使用して、MongoDB ノードおよびクラスターを構成して保守できます。

NetBackup では、MongoDB Ops Manager ポータルから、資産を監視、バックアップ、リカバリできます。NetBackup 内のポリシーでは、NetBackup ポリシーで定義されている完全バックアップと差分増分バックアップがサポートされています。

詳しくは、『NetBackup™ for MongoDB Ops Manager 管理者ガイド』を参照してください。

FortKnox Google の構成

FortKnox Google for NetBackup は、Web UI または CLI を使用して構成できます。また、msdpclutil コマンドが FortKnox 向けに更新されています。

『NetBackup 重複排除ガイド』の次のセクションを参照してください。

- FortKnox Google for NetBackup の構成
- CLI を使用した FortKnox Google for NetBackup の構成

NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能

NetBackup が SQL Server 稼働環境にないデータベースを含むインテリジェントグループバックアップを実行すると、NetBackup はメッセージをログに記録し、状態コード 1 を報告し、そのデータベースの[データベースの状態 (Database state)]を[削除済み (Deleted)]として表示します。ログメッセージの例を次に示します。

```
08:31:05.561 [5736.15584] <2> debuglog:  
<16> bphdb do_script: ERR - exit status:  
5465 Could not find database objects during backup.
```

```
08:31:05.561 [5736.15584] <2> debuglog:  
<16> bphdb do_script:  
INF - Partial success status so switch status  
from <5465> to <1>
```

マルウェアスキャンでの Hyper-V ポリシー形式のサポート

NetBackup 11.0.0.1 では、Hyper-V ポリシー形式のマルウェアスキャンがサポートされるようになりました。詳しくは、『NetBackup for Hyper-V 管理者ガイド』を参照してください。

Veritas Alta View Recovery Vault から FortKnox for NetBackup への変更

Veritas Alta Recovery Vault は、FortKnox for NetBackup に名前が変更されました。これは単にブランドが変更されただけで、サービスレベルが変更されたわけでも、お客様の環境を変更する必要があるわけでもありません。この取り組みは、Cohesity における全体的な命名規則とブランド整合性戦略の一環として行われたものです。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 11.0.0.1 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Manager \(以前の NetBackup CloudPoint\)](#)
- [NetBackup for VMware の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup NAS の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)

NetBackup 11.0.0.1 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたは Cohesity のサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。の指定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。NetBackupCohesity

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 11.0.0.1 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows で NetBackup 11.0.0.1 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 11.0.0.1 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で mklogdir コマンドの説明を参照してください。

ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場

合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf  
rpm -U --noscripts VRTSnbpcck.rpm  
rpm -U VRTSspbxx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (_) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall や swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 11.0.0.1 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する

NetBackup Web UI で[Replication Director を使用 (Use Replication Director)]オプションおよび[スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)]オプションが選択された既存のポリシーを変更しようすると、次のエラーが表示されます。

Error code 4224: Host. STS Internal Error

BPFIS ログに次のメッセージが表示されます。

```
15:16:13.416 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.416029 <Thread id - 1> Failed to wait for
operation result, Error code [2060017] and message [system call
failed]
15:16:13.417 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.417125 <Thread id - 1> OST Library call
failed with message (STS API waitForAsyncCall failed with error
code : 2060017)
```

回避方法:

次のいずれかの操作を実行します。

- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[エラーを無視して保存 (Ignore errors and save)]をクリックします。NetBackup 管理コンソール (Java UI) を開き、ポリシーを編集して保存します。
- エラーが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、[ポリシーを編集 (Edit policy)]をクリックします。ポリシーを保存するには、[保存 (Save)]をクリックします。トポロジー検証オプションが表示された[ポリシーの検証 (Policy validation)]ダイアログボックスで、トポロジー検証オプションとして、[完了 (Complete)]ではなく[なし (None)]または[基本 (Basic)]を選択して保存します。

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 11.0.0.1 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Cohesity のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.39 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 11.0.0.1 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]というエラーが表示される

指定した時点 (PIT) のリストア操作 (完全ファイルシステムリストアまたは BMR リストアのいずれかが含まれる場合がある) が実行された後、エラーメッセージ[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]が表示されます。

このシナリオでは、root または管理者アカウントとして SERVICE_USER が構成されている場合に完全バックアップが実行されます。このアカウントは、root または管理者の所有権を持つ NetBackup のインストール済みバイナリのバックアップを取得します。リストアの前に、root または管理者以外のアカウントで SERVICE_USER が構成され、サービスユーザーが bp.conf の一部としてバックアップされる増分バックアップが取得されます。増分バックアップによる PIT リストア操作では、SERVICE_USER エントリがリストアされます。ただし、バイナリは root アカウントの所有権でリストアされます。

回避方法:

サービスユーザーを変更した後、ファイルシステムの MS-Windows¥Standard Policy か BMR ポリシー構成かにかかわらず、完全バックアップを作成する必要があります。

NetBackup 11.0.0.1 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が失敗する

SRT (共有リソースツリー) の作成中に、コマンドラインコンソールに次のエラーメッセージが表示されます。

```
lslpp: Fileset libc++.rte not installed.
```

```
ERROR: Could not resolve major version level from [].
```

```
ERROR: Detected an attempt to install incorrect platform and/or  
operating system and version client binaries on  
falcnal2c3.abcus.abc.com.
```

```
Required AIX OS libc++.rte runtime is not present.
```

```
File /tmp/install_trace.xxxxxxxx contains a trace of this  
install. That file can be deleted after you are sure the
```

```
install was successful.  
Do you want to retry install of Veritas NetBackup Client? (y/n) [y]  
:
```

AIX BMR SRT の作成中に NetBackup 11.0.0.1 クライアントをインストールするときは、SRT 内に `libc++` ランタイムバージョン 16.1.0.7 以降が必要です。`libc++` ランタイムバージョンが、作成時の AIX BMR SRT に存在しない場合、NetBackup 11.0.0.1 クライアントのインストールが失敗し、これにより SRT 作成エラーが発生します。

回避方法:

回避策について詳しくは、この技術情報の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100060647

Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある

Linux クライアントで BMR (Bare Metal Restore) のリストア操作を実行した後、NetBackup サービスが自動的に起動しないことがあります。

BMR リストア操作後に NetBackup サービスがしばらく実行され、BMR のリストア後のスクリプトが正常に完了する場合があります。しかし、その後で NetBackup サービスが停止することがあります。

この問題は、サービスユーザーが、NetBackup Linux クライアントで定義されている root ユーザーと異なる場合にのみ発生します。

回避方法:

Linux クライアントで NetBackup サービスを手動で起動します。サービスを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項

この項では、バージョン 11.0.0.1 の NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup バージョン 11.0.0.1 の AIR (自動イメージレプリケーション) では NetBackup 10.2 以降が必要

NetBackup バージョン 11.0.0.1 があるコンピュータから、10.2 より前のバージョンの NetBackup があるターゲットコンピュータに対し、AIR (自動イメージレプリケーション) を実行することはできません。

回避方法:

なし。ターゲットコンピュータを NetBackup バージョン 10.2 以降にアップグレードします。

Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する

Azure で、10.3 より前の NetBackup バージョンで作成されたポリシーを新しいバックアップホストで更新すると、バックアップは失敗します。

バージョン 10.3 の修正された問い合わせ形式がこの問題の原因です。

回避方法:

バケット内のすべての既存の問い合わせを新しい形式に更新します。

レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない

NetBackup 10.3 以降で作成されたバックアップイメージを古い NetBackup バージョンにレプリケートする場合、古いバージョンの NetBackup を使用してデフォルトの保持が有効になっているバケットまたはコンテナをリストアできません。

回避方法:

1. NetBackup バージョン 10.3 以降でリストアします。
2. イメージを NetBackup バージョン 10.3 以降にレプリケートします。

バックアップジョブが応答なくなり、一時的なステージング場所で大量の領域を消費する。

NetBackup クラウドオブジェクトストアのデータ保護機能では、ListObjects S3 API を使用してオブジェクトのリストを反復し、バケット内のオブジェクトをさらに読み取ってバックアップします。ListObjects S3 API は、キー名と NextContinuationToken に基づいて、1 つの要求につき最大 1,000 個のオブジェクトを辞書式順序で返します。この NextContinuationToken はページ分割に使用されます。たとえば、1 回の ListObjects S3 API 呼び出しで、1,000 個のオブジェクトの次のセットを取得し、新しい NextContinuationToken を使用して続くページを取得します。

Hitachi などの特定のクラウドオブジェクトストアプロバイダでは、オブジェクト名に特定の特殊文字が含まれていると **NextContinuationToken** が正しく動作せず、バックアップパフォーマンスが妨げられる可能性があります。

この動作により、一時的なスレージング領域で **NetBackup** が使用する `cos_sqllite` データベースが中断されます。このデータベースには、進行中のバックアップジョブのオブジェクトリストが格納されます。この中断により、`cos_sqllite` データベースのサイズが大幅に増加し、一時的なスレージング領域のディスク領域がいっぱいになります。これにより、**NetBackup** ジョブに時間がかかり、最終的に失敗します。

回避方法:

1. 各バッチの適切な値を返すために、`ListObjects S3 API` 呼び出しで **NextContinuationToken** を再構成します。
2. 既存のバックアップジョブを取り消し、バックアップを再試行します。

NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)

Alma Linux 9.5 および 8.10 のマーケットプレイスイメージから作成した VM では、スナップショットコピーからの単一ファイルリストアに失敗する

Alma Linux 9.5 および 8.10 のマーケットプレイスイメージから作成した VM では、スナップショットコピーからの単一ファイルリストアに失敗し、次のエラーが表示されます。

新しいボリュームの接続に失敗しました: インスタンス「i-03617074318ed73d6」が「停止」状態ではないため、ボリューム「vol-030b9bab869afe574」をマーケットプレイスコードで接続できません。(Failed to attach new volume: Cannot attach volume 'vol-030b9bab869afe574' with Marketplace codes as the instance 'i-03617074318ed73d6' is not in the 'stopped' state.)

NetBackup for VMware の操作上の注意事項

NetBackup 10.5 以降では、**Web UI** での **VMware** サーバー資産の検出に **NetBackup 10.5** 以降のバックアップホストが必要です。

NetBackup 10.5 以降、**VMware** サーバーのクレデンシャル検証と資産検出に使用するホストは、バージョン **10.5** 以降である必要があります。それ以外の場合、検出は失敗します。デフォルトでは、この値はプライマリサーバーです。プライマリサーバーを引き続き使用する場合、変更は必要ありません。

NetBackup NAS の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Manager および NDMP V4 スナップショット拡張機能を使用して、クライアントデータのスナップショットを NAS ホスト上に作成できます。NAS スナップショットは、ある特定の時点のディスクイメージです。ディスク上のスナップショットは、任意の期間保持できます。NetBackup のインスタントリカバリ機能を使用すると、ディスクから効率的にデータをリストアできます。多くの場合、NetBackup では、NAS-Data-Protection ポリシーと NDMP ポリシーを使用して、NAS のスナップショットベースのデータ保護を実行できます。このトピックでは、NetBackup 11.0.0.1 の NetBackup NAS に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 11.0.0.1 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする

haproxy 接続の NBOSDMAPI サービスは、使用率の高い環境で応答時間に時間がかかることが原因でタイムアウトする場合があります。

ほとんどの環境では、デフォルトの haproxy 構成で正常に動作します。NBOSDMAPI でタイムアウトの問題が発生した場合は、haproxy 構成をカスタマイズしてください。詳しくは、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100052551

増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされますが、これらのディスクはマウントできません。

リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config_drive を削除するか、必要な値を設定します。

SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を /etc/nbosjm/ca-chain.pem に含めます。

スタックの更新後に、[NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが Horizon UI から消える

OpenStack スタックを更新すると、NetBackup for OpenStack の Horizon UI で [NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが表示されなくなります。スタックの更新によって、OpenStack からエンドポイントが誤って削除されます。この問題を解決するには、インストールパッケージに付属のスクリプト register_nbopenstack_service.sh を実行します。このスクリプトは、Horizon UI に [NBOS Backups] タブと [NBOS Backup Admin] タブが表示されるように、NetBackup for OpenStack サービスを登録します。

詳しくは、『NetBackup for OpenStack 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup クラウド作業負荷の操作上の注意事項

このトピックでは、バージョン 11.0.0.1 の NetBackup クラウド作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされる。

OCI プロバイダの KMS サービスが停止している場合、CMK を使用して暗号化されたディスクを持つ VM とその他の OCI 資産が、NetBackup UI で削除済みとしてマークされます。KMS サービスがリストアされると、プラグインレベルの検出が正常に完了すると削除済みの状態は解除され、資産または VM がバックアップできるようになります。これ以外の操作は必要ありません。

回避方法:

OCI プロバイダ側の KMS サービスが実行中であることを確認します。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 11.0.0.1 の国際化、日本語化、および英語以外のローケルに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、表領域名
- SAP:
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:
ボルトストア、パーティション、データ
- VMware:
ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 名

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)

Cohesity Services and Operations Readiness Tools について

Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、ベリタスエンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のように多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができているかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート
このツールを使うと、システムに関する推奨事項を取得できます。
- **NetBackup** のプラットフォームと機能の今後の予定
このツールを使うと、新しい機能や改善された機能に置き換えられることが予想される項目を確認できます。さらに、置き換わることなく廃止されることが予想される項目に関する情報も入手できます。これらの項目のいくつかには **NetBackup** の特定の機能、サードパーティ製品の統合、その他の製品の統合、アプリケーション、データベースおよび **OS** のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。**SORT** ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 11.0.0.1 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.19 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カタログをバックアップして、カタログバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- NetBackup 11.0.0.1 にアップグレードする前に、NetBackup リレーショナルデータベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。つまり、プライマリサーバーのデフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または <install_path>%Veritas%NetBackupDB\data (Windows) のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空

き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Cohesity のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにブッシュします。
- Cohesity は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、バイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リスト

で特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Cohesity は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 11.0.0.1 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Cohesity SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)で確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.39 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.31 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup 11.0.0.1 のバイナリサイズ

次の表には、NetBackup 11.0.0.1 プライマリサーバー、メディアサーバー、およびサポートされているさまざまなオペレーティングシステム対応のクライアントソフトウェアに対する概算バイナリサイズが示されています。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表に一覧表示されているサイズの場合、1 MB は 1,024 KB に相当します。

メモ: 表には、サポートされているオペレーティングシステムのみが表示されています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、[Services and Operations Readiness Tools \(SORT\) Web サイト](#)または [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)を参照してください。

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
AIX	64 ビットのクライアント	1,517 MB	サポート終了	
Alma Linux		1,916 MB		
Amazon Linux		1,916 MB		
BC-Linux		1,916 MB		

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
Canonical Ubuntu	x86-64	1,916 MB		
CentOS	x86-64	1,916 MB	6,952 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	1,916 MB		
Kylin Linux Advanced Server 10.0		1,916 MB		
NeoKylin Linux Advanced Server		1,916 MB		
Oracle Linux	x86-64	1,916 MB	6,952 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER 8/9 クライアント	522 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	1,916 MB	6,952 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	721 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		1,916 MB		
Solaris	SPARC	1,079 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	1,034 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER 8/9 クライアント	521 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1,417 MB	6,299 MB	

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64 ビットのサーバー	注意事項
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	745 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	1,159 MB	4,312 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表に表示されている合計バイナリサイズの **40～50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、表に表示されているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15～20%** です。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

NetBackup ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序を NetBackup Snapshot Manager コンピュータ、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、10.2 NetBackup Snapshot Manager > 10.0 プライマリサーバー > 9.0 メディアサーバー > 8.3.0.1 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 10.0 リリースは 10.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 9.1 リリースは NetBackup 9.1.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。9.1 プライマリサーバーは 9.1.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、9.1 プライマリサーバーと 10.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ

アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Cohesity SORT Web サイト](#)を参照してください。

[EOSL](#) 情報をオンラインで確認します。

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Cohesity Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.31 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Cohesity はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

メモ: 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Cohesity は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Cohesity 社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

■ 新しい NetBackup の機能

Cohesity が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Cohesity 社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Cohesity 社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Cohesity 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある [NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (Future Platform and Feature Plans)] ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.31 の「[Cohesity Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 11.0.0.1 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.9 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

Cohesity は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 11.0.0.1 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

メモ: Cohesity は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。
